13　那覇港之景　一面

山本芳翠

明治二十一年(一八八八)
油彩、キャンバス
四三・二×五七・五

作品No.12と同じく山本芳翠の九州沖縄地方連作画の一点で、描かれているのは琉球時代に貿易の中心地であった那覇港である。画面のほぼ中央で天と地がわけられ、南国らしい青空と、それとは対照的な暗褐色の浜辺に二分される。左側にみえる太鼓橋から、白いハイライトが際立つ灯台へと続く石造りの建造物は、三重城(ミーグスク)と呼ばれる城跡の一部である。三重城は十三世紀から十六世紀にかけて中国大陸沿岸で活動した倭寇からの防衛のために築かれた。手前に描かれたのは那覇の人々に親しまれた「西の海(ニーシヌウミ)」で、本作が描かれた頃から大正期にかけて行われた埋め立てにより、現在では三重城とともに失われている。

本作は三重城を西の海を挟んだ対岸から眺めたもので、浜辺には逆光で日陰になった四名の人物が描かれている。足元が水面に反射している様子から、その辺りまで潮が満ちている様子がわかる。本連作画の制作では、芳翠がスケッチや写真を利用したことが推測されており、陽射しの強烈さを意図したものか、いずれも陰影のコントラストが強く描かれているのが特徴である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写
三の丸尚蔵館展覧会図録No.86

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社アイワード
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan